

株 主 の 皆 様 へ

第 98 期
中間報告書

平成21年4月1日～平成21年9月30日

 山陽特殊製鋼株式会社

証券コード | 5481



代表取締役社長
藤原 信義

Contents

株主の皆様へ	1
事業セグメントの状況	3
連結財務諸表	5
トピックス	6
特集：環境保全への取り組み	7
会社・株式情報	9

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに、第98期第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）の営業の概況等をご報告申し上げます。

営業の概況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済につきましては、昨年中央以降の、米国の金融問題に端を発する世界同時不況を背景として、期の前半は、内外需要の急減、それに伴う生産減による企業収益の悪化や設備投資の減少など、誠に厳しい状況で推移いたしました。期の後半においては、各国政府の経済対策の効果や、各分野における在庫調整の進展により、需要・生産とも持ち直してまいりましたが、他方で失業率が過去最高水準となるなど、景気は引き続き、楽観を許さない状況にあります。

特殊鋼業界におきましては、主要需要業界のうち、自動車業界においては、エコカー減税等の好影響により若干回復の兆しをみせましたが、産業機械、建設機械業界については、引き続き受注・生産が、極めて低い水準で推移したことから、特殊鋼熱間圧延鋼材の生産は、前年同期を大きく下回る水準となりました。

このような中、当社グループの売上高につきましては、販売数量の大幅な減少により、前年同期比606億35百万円減の383億36百万円となりました。

利益面におきましては、コストダウンの実施に注力したものの、販売数量の大幅な減少により、経常損益は71億34百万円の損失（前年同期は72億57百万円の利益）となりました。四半期純損益に

つきましては、44億54百万円の損失(前年同期は36億28百万円の利益)となりました。

今後の見通し

今後のわが国経済の見通しにつきましては、各分野における在庫調整の進展に加え、各国の経済対策の効果、また、中国・インドを中心とする新興国の経済成長等により、若干の跛行を伴いつつも、徐々に回復に向かうものと考えられます。しかしながら、当面の間は、実体経済の水準そのものは低いレベルで留まるものと考えざるを得ず、特殊鋼の需要水準についても、従前の水準までの回復には時間を要するものと考えられます。このように当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続くと思われまます。

こうした中、当社グループとしては、需要家ニーズへの的確な対応や、非価格競争力の強化に向けた取り組みに、より一層注力することによって、こうした状況下でも堅調な分野の需要を確実に捕捉するとともに、コストダウンのさらなる徹底等の内部努力や、鉄スクラップサーチャージ制度の拡充、確立など、高品質の特殊鋼を適切に供給できる事業体制の構築について全社を挙げて推進し、企業価値の増大を図っていく所存です。

以上のことを総合的に勘案し、通期の業績予想につきましては、売上高1,050億円、営業利益3億円、経常利益5億円、当期純利益3億円といたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

連結売上高



連結経常利益



連結純利益



鋼材事業

売上高構成比
88.1%

営業の概況

昨年秋口以降、急激に落ち込んだ需要は、期の後半になって、ようやく一部回復の兆しがみられましたものの、期全体では低い水準で推移いたしました。これによる販売数量の減少により、売上高は371億27百万円（前年同期比576億5百万円減）となりました。営業損益につきましては、コストダウンの実施に注力したものの、販売数量の減少などにより65億41百万円の損失（前年同期は68億14百万円の利益）となりました。



事業解説

鋼材事業セグメントでは、当社の高清浄度鋼製造技術により、国内生産シェアトップである軸受鋼をはじめとして、機械構造用鋼、ステンレス鋼などの特殊鋼鋼材・鋼管を製造、販売しています。

当社の鋼材は世界最高水準の清浄度を誇り、「鋼材が持つ本来の性能を最大限まで引き出すために、鋼中の最大介在物の大きさをコントロールする」という当社独自のコンセプトで開発された製鋼法「SNRP (Sanyo New Refining Process)」をはじめとする製鋼技術や操業技術がそれを支えています。また、日本の特殊鋼専門メーカーの中では当社が唯一継目無鋼管製造設備を保有していることも、当社の大きな特長です。



特殊鋼鋼材・鋼管

(注) 各事業セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。
ただし、売上高構成比につきましては、各事業セグメント売上高のうち外部売上高のみから算出しております。

素形材事業

売上高構成比
11.8%

営業の概況

鋼材事業と同様、販売数量の減少により、売上高は45億30百万円(前年同期比52億67百万円減)となりました。営業損益につきましては、販売数量の減少などにより8億80百万円の損失(前年同期は5億22百万円の利益)となりました。

売上高



営業利益



事業解説

素形材事業セグメントでは、高纯净度鋼製造技術を駆使して造りあげた高信頼性鋼から、高品質の素形材製品を一貫した工程で製造しています。当社の素形材には、特殊鋼管を高い精度で切断した切断リングや、棒鋼から製造する鍛造リング・型鍛造品・ローリング品、リング素形材を冷間で転造した冷間転造リングなどがあります。



鍛造リング

その他事業

売上高構成比
0.1%

営業の概況

売上高は4億33百万円(前年同期比10億21百万円減)、営業利益は3百万円(前年同期比54百万円減)となりました。

事業解説

子会社を通じて、情報処理サービスなどを行っています。

売上高



営業利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日)
(資産の部)	
流動資産	78,828
固定資産	70,538
資産合計	149,367
(負債の部)	
流動負債	49,607
固定負債	16,020
負債合計	65,628
(純資産の部)	
株主資本	82,299
評価・換算差額等	1,033
少数株主持分	406
純資産合計	83,739
負債純資産合計	149,367

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	38,336
売上原価	41,541
売上総損失	3,204
販売費及び一般管理費	4,200
営業損失	7,405
営業外収益	725
営業外費用	453
経常損失	7,134
特別利益	27
特別損失	363
税金等調整前四半期純損失	7,470
法人税等合計	△ 2,987
少数株主損失	27
四半期純損失	4,454

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,040
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,039
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	28
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 10,001
現金及び現金同等物の期首残高	22,468
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,466

■ 連結総資産・純資産



「ものづくり日本大賞」優秀賞を受賞

「超高压架空送電線用高強度インバー合金線の開発と実用化」について、第3回「ものづくり日本大賞」において優秀賞を受賞しました。

今回の受賞は、高压送電線の芯線に求められる延性と低熱膨張性の双方を確保し、かつ量産が可能なインバー合金線としては世界最高水準の強度を実現したことが評価されたものです。



インバー電線

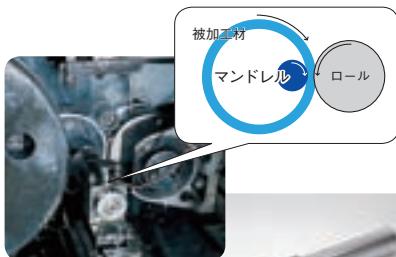
電力需要は世界的に高い水準で推移するとともに、CO₂削減に向けて建設される風力・太陽光・原子力などの発電所から電力消費地への長距離送電は今後増加するものと見込まれます。そのため、送電容量の大幅な増大を計画している日本国内や、高压送電線を新たに設置する海外の各国、地域において、インバー電線（芯線にインバー合金線を用いた送電線）の需要はさらに高まると考えられます。

当開発合金は、商品化以降、日本国内および海外の顧客から、送電線としての信頼性について高い評価を受けています。今後も、一層の市場浸透に向けて継続的な改善を重ねていく方針です。

日本金属学会「技術開発賞」を受賞

「高韌性・高耐食粉末ハイスSPMR8(エスピーエムアールエイト)」が、第32回日本金属学会「技術開発賞」を受賞しました。

今回の受賞は、斬新な合金設計と当社の粉末成形プロセスにより、汎用粉末ハイスSPM23相当の硬度と耐摩耗性を維持しつつ、韌性と耐食性の大幅な向上を実現した技術先進性と商品開発力が称えられたものです。



冷間鍛造用マンドレル

SPMR8は、汎用粉末ハイスSPM23に比べ約3倍の韌性を有しており、過酷な使用条件で用いられる冷間加工用金型などの早期割れ・欠けの抑制に貢献します。また、各種の酸の腐食環境において優れた耐食性を発揮し、プラスチック成形機用部品などの腐食に起因する早期摩耗を抑えることに寄与します。

SPMR8は、主に冷間鍛造用金型、冷間加工用ロール・マンドレル、プラスチック成形機用部品などに使用されており、特に冷間マンドレルやパンチ、プラスチック射出成形機用スクリーなどで、その優れた特性が高い評価を得ています。

当社は引き続き、SPMR8のさらなる市場浸透に向けた取り組みを推進してまいります。

副産物リサイクルの推進

電気炉スラグをリサイクルし、電気炉スラグ製品として販売するなど、副産物の再生利用に取り組んでいます。

電気炉スラグ製品の販売

当社はゼロエミッションを目指し、資源循環型社会の構築に向けた事業活動を推進しています。

電気炉による製鋼工程で発生する電気炉スラグは、石、砂等の天然資源の代替材として活用され、工業製品として各方面で評価されています。当社では、電気炉スラグを破碎後、エージング処理を施して品質安定化を図り、電気炉スラグ製品として出荷・販売しています。当社の電気炉スラグ製品は、道路用路盤材やアスファルト骨材として利用されており、2005年には、姫路市の資源循環型舗装のアスファルト骨材としても採用されています。



電気炉スラグ



工場内の道路にも、電気炉スラグ製品を活用しています。

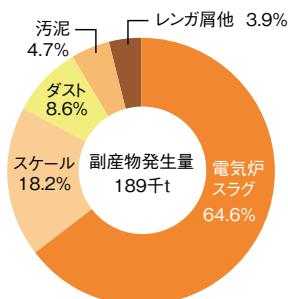
2009年7月には、電気炉スラグ製品のより一層の品質向上に向け、加圧式蒸気エージング設備を導入しました。これによって、電気炉スラグのエージング処理が短時間に、より確実に実施され、さらに品質の安定した信頼性の高い電気炉スラグ製品の提供が実現しています。当社は、鉄鋼スラグ協会の「鉄鋼スラグ製品の管理に関するガイドライン」の順守を徹底し、製造、販売、品質等の各般にわたる管理体制を強化しており、さらなる資源循環型社会の構築に貢献してまいります。

「CSR報告書2009」を発行しています。当社ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。
http://www.sanyo-steel.co.jp/corporate_info/index_kankyo.html

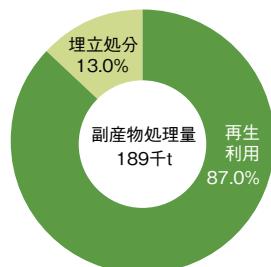


副産物の再生利用

● 副産物発生量の内訳



● 副産物処理方法の内訳



副産物の有効活用と埋立処分量抑制に向け、ダストの利用技術開発や汚泥の含有率の低減による発生量の削減、また、レンガ屑については用途開発推進による再資源化など、積極的な取り組みを推進しています。

資材購入に伴うダンボールや事務所から発生する紙ごみや空き缶、ペットボトル、プラスチック容器などの一般廃棄物は、分別回収を徹底し、資源としての再生利用に寄与しています。

日本初の高圧処理能力を持つ加圧式蒸気エージング設備を導入

電気炉スラグ製品の品質向上に向け、加圧式蒸気エージング設備を導入しました。

電気炉スラグ製品の製造工程では、「エージング」という体積安定化処理を施し、品質に関わる検査を行った後に製品を出荷しています。

今回導入した設備は、加圧蒸気を用いた製鋼スラグ(注)のエージング設備として、日本初の1.0MPaの高圧処理能力を持ち、処理時間のさらなる短縮化が図れるほか、粒子間に蒸気が浸透する等、高い品質安定性が期待できます。

当社は、社内で発生する電気炉スラグの全量を、この加圧式蒸気エージング設備で処理することで、「品質の安定した、信頼性の高い電気炉スラグ製品」を提供してまいります。

(注) 製鋼スラグ：電気炉スラグを含む、転炉や電気炉での製鋼工程で発生するスラグの総称



加圧式蒸気エージング設備

会社概要

平成21年9月30日現在

社名 山陽特殊製鋼株式会社
英文社名 Sanyo Special Steel Co., Ltd.
設立 昭和10年1月
資本金 20,182百万円
営業品目 特殊鋼鋼材・鋼管、素形材、その他
本社・工場 姫路市飾磨区中島3007番地(〒672-8677)
☎(079)235-6003(総務部)
支社・支店・営業所 東京支社、大阪支店、名古屋支店、広島支店、
九州営業所
従業員数 1,506名(就業人員)
ホームページアドレス <http://www.sanyo-steel.co.jp/>

役員

平成21年9月30日現在

代表取締役社長	藤原信義	常務取締役	磯本辰郎
専務取締役	岸本耕司	取締役	水田克巳
専務取締役	桐山哲夫	取締役	富永真市
専務取締役	児玉和哉	取締役	西濱渉
常務取締役	藪木清	取締役	柳谷彰彦
常務取締役	塚本裕	常勤監査役	重森哲二
常務取締役	田中延幸	常勤監査役	堤晴兒
常務取締役	木村弘明	常勤監査役	佐々木英之
常務取締役	中村秀樹	監査役	吉井毅

重要な子会社等

平成21年9月30日現在

鋼材事業

連結子会社

- 陽鋼物産株式会社
(特殊鋼製品、製鋼原料、諸資材などの売買)
- サントク精研株式会社
(特殊鋼製品の加工・販売)
- 山特工業株式会社
(特殊鋼の加工、機械設備のメンテナンス)
- SKJ Metal Industries Co., Ltd.
(特殊鋼製品の加工・販売)
- P.T. SANYO SPECIAL STEEL INDONESIA
(特殊鋼製品の加工・販売)

素形材事業

連結子会社

- サントクテック株式会社
(特殊鋼製品の加工)
- SANYO SPECIAL STEEL U.S.A., INC.
(特殊鋼製品などの輸入・販売)
- 寧波山陽特殊鋼製品有限公司
(特殊鋼製品の加工・販売)

持分法適用関連会社

- Advanced Green Components, LLC
(特殊鋼製品の加工)

その他事業

連結子会社

- サントクコンピュータサービス株式会社
(情報システム構築・運用・コンサルティング)

株式の状況

平成21年9月30日現在

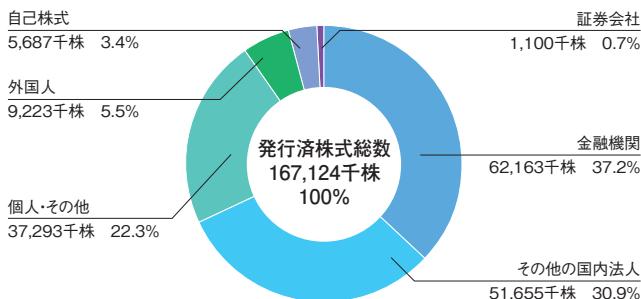
発行可能株式総数	474,392,000株
発行済株式総数	167,124,036株
株主数	23,294名

大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
新日本製鐵株式会社	24,256	15.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,143	6.97
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,401	5.88
山陽特殊製鋼株式会社	8,005	5.01
日本精工株式会社	7,470	4.67
株式会社みずほコーポレート銀行	5,942	3.72
株式会社三井住友銀行	5,696	3.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,351	2.10
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	3,108	1.94
株式会社三菱東京UFJ銀行	2,849	1.78

(注) 当社は、自己株式5,687千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

株式の所有者別分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月下旬

同基準日 3月31日

配当の基準日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

電子公告
【アドレス】 <http://www.sanyo-steel.co.jp/>
事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、
日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 中央三井信託銀行株式会社

〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号
事務取扱場所 中央三井信託銀行株式会社
大阪支店 証券代行部

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
郵便物送付先 中央三井信託銀行株式会社
証券代行部

お問合せ先 【フリーダイヤル】0120-78-2031

上場証券取引所 東京(証券コード 5481)

単元未満株式の買増・買取請求制度のご案内

当社には、1,000株未満の株式(単元未満株式)の買増・買取請求制度がございます。

詳細は、上記お問合せ先までお尋ねください。

**SANYO
SPECIAL
STEEL**